

## 『未来センター会議』報告会開催!～小さな活動から自分たちで始めよう～

2月18日(日)、「未来センター会議」報告会が地域交流センター「はなもも」で開催されました。報告会は、町議会議員、区長会、公民館長や各種団体など約120人の方々の参加のもと、今年度の経過報告などが行われました。

今まで開催した3回のワークショップで多く意見のあった「いびがわストーリーを伝え隊」「いびカフェをつくりたい」「はじまりの場所をつくりたい」というテーマについて、それぞれ話し合った結果や今後の取組の方向性などをスライドやビデオ、劇などにより発表しました。



また、徳島県神山町と上勝町での先進地視察の研修発表が行われ、「小さな成功体験を積み重ねるといいよ」「できない理由よりできる方法を考えたら」などとアドバイスを受けた内容を発表しました。

最後に、富田町長は「各地域や各団体、職員などが一緒になっていろいろなアイデアを考え、提言してもらいました。この発表の中で『小さな活動からでも自分たちでやろう!』という思いであることを大変うれしく思っています。来年度もこのような取組を続けていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします」と締めくくりました。



▲一斉にスタート

またこの大会は毎年10月に開催される岐阜清流駅伝の選手選考大会にもなっているため、郡内のトップ選手の参加も年々増えています。今年も855人のエントリーがあり、素晴らしい天気の中、颯爽と掛斐路を走るランナーには地元住民から温かい声援が送られ、全員がゴールしました。

2月25日(日)、掛斐川健康広場を発着として第31回IBIGAWAフリーマラソンが開催されました。今年で31回目を迎え、「だれもが気軽に楽しめる大会」を目指して、新しく一般男子40歳以上の部、一般女子40歳以上の部が新設され、全部で9部門となりました。

IBIGAWA  
フリーマラソン

美濃いびジェラート  
一村逸品大賞を受賞

日本農業新聞が主催する第14回一村逸品大賞で、岐阜県で初めて、J A いびがわの「美濃いびジェラート」が大賞を受賞しました。

一村逸品大賞は、日本農業新聞の一村逸品コーナーに掲載された農産物加工品の中から、特に優れた商品を表彰するコンテストで、美濃いびジェラートは、抹茶、ほうじ茶、イチゴの3種類をいづれも地元産で揃えたことで、実においしくまとまっていると高い評価を受けました。表彰式は5月10日に東京都内のホテルで行われる全国農業新聞大会で予定されています。



町民とプロの音楽家が競演  
パツハ「受難曲」コンサート

2月25日(日)、プロの音楽家と古楽器オーケストラによる「ヨハネ受難曲」を歌うコンサートが、地域交流センター「はなもも」で開かれました。

このコンサートは、揖斐川町文化協会の30周年のプレイベントとして行われ、74名の「ヨハネを歌う会」の皆さんが参加しました。

昨年の4月から指揮者で声楽家の青木洋也さんから専門的な指導を受け、練習を重ねてきた「歌う会」の皆さんは、700人を超える観客の前で壮大に歌い上げました。

合唱の参加者は、「プロと一緒にヨハネを歌い上げることができて大変貴重な経験となった。」「多くの聴衆のみなさんとともに感動の時間をもつことができました。」とコンサートの成功を喜びました。



▲町民の皆さんとオーケストラの共演

椋原谷地区森林整備  
推進協定を締結しました

2月15日(木)に椋原谷国有林と隣接する町有林や椋原谷林野組合等の民有林が連携して路網整備や森林整備、木材生産を行うことを目的とした「椋原谷地区森林整備推進協定」を締結しました。

今後はこの協定により、現在国有林内に整備されている路網を利用できるため、民有林内の森林整備を効率的かつ迅速に実施することが可能となります。



▲関係者による協定締結の様子

谷汲門前地区周辺環境  
整備工事を実施しました

谷汲門前地内にある東海自然歩道へつながらる散策道周辺の環境改善を図るため、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、危険木の除去や法面保護等の環境整備工事を実施しました。

これにより、東海自然歩道から谷汲山華厳寺へ抜ける散策道としての役割を果たし、2つの観光資源を結びつけることで、谷汲門前地区周辺のさらなる活性化が期待されます。



清流の国ぎふ